

## P-057

## 慢性疾患を持つ子どもの移行期医療に関する海外文献の検討

熊谷 有紀、白坂 真紀、桑田 弘美

滋賀医科大学医学部臨床看護学講座（小児）

## 【目的】

医学の進歩に伴い、慢性疾患を持つ多くの小児患者が成人期を迎えるようになった。小児医療から成人医療への移行支援は全国的な課題として厚生労働省が整備を進めているところである。慢性疾患を持つ子どもの移行期医療に関する海外文献を通し、医療保険制度や文化的背景が日本と異なる海外で、移行期医療への課題について検討することを目的とする。

## 【方法】

PubMedを用いて、2023年2月～3月に文献検索を行った。「transition」「children」「adult」「follow up」「cancer」を検索キーワードとし、海外で行われた移行期医療に関する研究で慢性疾患や小児がんサバイバーを対象とした報告があった6件を対象とした。

## 【結果】

文献6件のうち、小児がんサバイバーを対象としたものは3件、遺伝性疾患やいくつかの慢性疾患を対象としたものは1件、腎疾患を対象としたものは1件、先天性心疾患を対象としたものは1件であった。これらは、カナダ、アメリカ、ノルウェーで行われた研究と、多国間の比較により行われた研究である。いずれの研究でも、成人移行には構造化されたプログラムやシステムの整備が必要であることを指摘していた。それぞれ医療保険制度や文化的背景の異なる国の研究報告であったが、移行期医療の成功に必要なこととして共通して挙げられていたのは、小児科と成人科のコミュニケーション、医師や看護師など医療従事者が患者の話をよく聞くこと、個々の発達を考慮に入れた支援を行うことであった。また、特にがんサバイバーに関しては、サバイバー自身への教育が必要であることも示唆されていた。

## 【考察】

小児期にがん治療を受けたサバイバーは、自分の病気や受けた治療、将来起こり得る晩期合併症について理解できていないと、症状が出現した際の対処について自ら判断することが難しい。患者自身の自己管理能力が向上し、成人になった後も自己の健康管理を行いながら生活していくことができるように支援することが重要である。また、いずれは小児科から成人科へ移行することを早い段階から子どもや家族へ丁寧に説明し、小児科を修了するための準備期間と、成人科に移行するための準備期間がオーバーラップするような状況で移行していく段階が必要である。そうするとスムーズな移行期医療が行えるようになるのではないかと考えた。

## P-058

## 小・中学生の親子の生活習慣の検討

谷川 涼子、古川 照美、播摩 優子、清水 亮

青森県立保健大学

## 【はじめに】

子どもの肥満が高血圧や脂質異常症、糖尿病などの健康障害を引き起こすことが知られている。子どもの生活習慣は家庭環境や親の養育態度、生活習慣が影響していることが報告されており、親子が家庭でどのように過ごしているのか生活習慣の状況を把握することが重要である。そこで、小学生・中学生の親子の生活習慣を明らかにし、生活習慣病予防対策に示唆を得ることを目的とした。

## 【方法】

青森県内3地域の町の小学生5.6年生と中学生の親子を対象とした。親の調査の内容として、たばこ、飲酒、運動習慣、ゲーム習慣、規則的な生活の有無、平日のテレビやスマートフォンの時間、ゲーム時間、睡眠時刻などの生活習慣についてである。子どもの調査内容は、朝食摂取、運動習慣の有無、自宅での過ごし方について、平日のテレビやスマートフォンの時間、ゲーム時間、睡眠時刻、勉強時間などの生活習慣について調査した。親子の生活習慣について記述統計を行い、クロス集計表は独立性の検定( $\chi^2$ 検定)、平均値の検定はMann-Whitney U検定を実施した。なお本研究は所属機関の倫理委員会の承認を受けて実施した(承認番号:22010)。

## 【結果】

対象者は親子のマッチングができた98名であった。男子は小学生17名(30.3%)、中学生39名(69.7%)、女子は小学生13名(31.0%)、中学生29名(69.0%)であり、平均年齢は男子10.4±0.5歳、女子10.5±0.6歳であった。親子の生活習慣の比較では、ゲーム習慣( $p=0.001$ )、スポーツ習慣( $p=0.047$ )において有意差がみられた。運動時間( $p=0.001$ )、睡眠時間( $p<0.001$ )、ゲーム時間( $p<0.001$ )は有意に子どもが長く、テレビスマホ時間( $p<0.001$ )は有意に親が長かった。

## 【考察】

生活時間では、親のテレビスマホ時間が子どもより長く、運動時間や睡眠時間、ゲーム時間は子どもが長くなっており、家庭における生活時間の過ごし方に相違がみられた。しかし、ゲーム習慣の有無は親子で関連しており、家庭の中にゲーム機器がある環境であることや親のゲームをしている姿を見て過ごすことが子どものゲーム習慣に影響していると思われる。親の生活習慣が子どもの生活習慣に影響している可能性があり親の良好な生活習慣の改善が必要である。